

各関係機関団体の長  
殿  
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

技術情報第1号

水稻の海外飛来性害虫の発生予想パターン図について

ウンカ類及びコブノメイガの7月2半旬の現地ほ場における発生状況とネットトラップ及び予察灯での捕獲数等に基づく発生予想パターン図をお知らせいたします。今後の防除対策の資料として活用をお願いします。

1 作物名 水稻

2 病虫害名 トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ

3 発生状況

- (1) トビイロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均0頭（平年0.08頭、前年0.01頭）で、平年・前年より少ない。発生ほ場率は0%（平年3.5%、前年2.7%）で、平年・前年より低い。
- (2) セジロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均3.7頭（平年8.8頭、前年1.0頭）、発生ほ場率は51.2%（平年68.3%、前年33.3%）で、いずれも平年よりやや少なく、前年より多い。
- (3) コブノメイガの食害株率は0.01%（平年0.36%、前年0.32%）で、平年・前年より少ない。30㎡当たり払い出し成虫数は0.0頭（平年0.3頭、前年0.2頭）と、平年・前年よりやや少ない。
- (4) 表に示すように、本年は、セジロウンカは6月16日に筑後市の予察灯で初めて捕獲され、6月6半旬から7月16日まで断続的に飛来が見られた。トビイロウンカは6月24日に筑後市の予察灯で初めて捕獲され、その後も飛来が見られた。

トビイロウンカの飛来は、セジロウンカの捕獲数やウンカ飛来予測シミュレーションモデルでの状況等を参考にして6月26日前後、7月4日頃（主要飛来）、7月7日及び7月14日とした。コブノメイガの飛来もこれに準じた。なお、7月14日の飛来については、ほ場における発生状況により主要飛来とすべきか今後検討を行う。

4 防除上注意すべき事項

- (1) トビイロウンカの飛来量はセジロウンカに比べて少ないが、飛来後の増殖率が極めて高い。また、地域やほ場による発生への差が大きいため、発生予想パターン図を参考にしてほ場における発生状況を把握し、できるだけ若齢幼虫期に防除を行う。

- (2) 育苗箱施薬剤が施用された場合でも、移植後1か月以上経過した水田においてはウンカ類が増殖しやすいので、防除所が発表する今後の情報に注意し、適期防除を行う。
- (3) 無人ヘリコプターによる防除を実施する場合は、気温が高くなる前の早朝に実施する。気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化して防除効果が著しく低下する場合がある。
- (3) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- (4) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。

5 海外飛来性害虫の誘殺状況（表1）

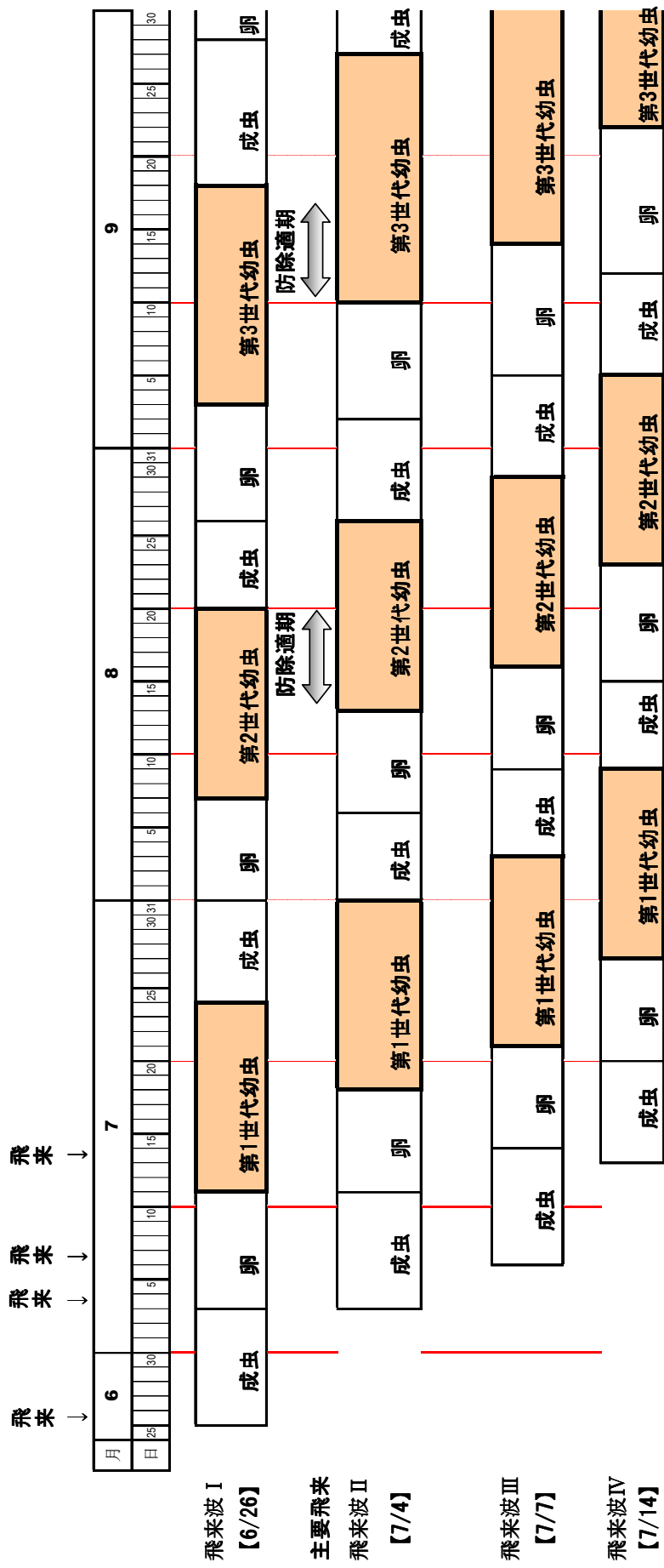
6 海外飛来性害虫の飛来に基づく発生予想パターン図

- (1) トビイロウンカ（図1）
- (2) コブノメイガ（図2）

表1 ネットトラップ及び予察灯における長距離飛来性ウンカ類の誘殺状況（平成24年）

月日	セジロウンカ							トビイロウンカ						
	ネットトラップ	予察灯						ネットトラップ	予察灯					
		筑紫野市	筑紫野市	筑後市	行橋市	糸島市	遠賀町		予察灯計	筑紫野市	筑紫野市	筑後市	行橋市	糸島市
6/1	-	0	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0
6/2	-	0	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0
6/3	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/4	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/5	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/6	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/7	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/8	-	0	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0
6/9	-	0	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0
6/10	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/11	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/12	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/13	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/14	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/15	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/16	0	0	1	0	-	0	1	0	0	0	0	-	0	0
6/17	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/18	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/19	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/20	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/21	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/22	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/23	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/24	0	0	0	0	-	0	0	0	0	1	0	-	0	1
6/25	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/26	0	0	3	0	-	0	3	0	0	1	0	-	0	1
6/27	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/28	0	0	1	0	-	0	1	0	0	0	0	-	1	1
6/29	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/30	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	3	-	0	3
7/1	1	0	1	0	-	0	1	1	0	0	0	-	0	0
7/2	9	1	0	0	-	0	1	0	0	0	0	-	0	0
7/3	11	0	1	0	-	0	1	0	0	0	0	-	0	0
7/4	12	2	39	1	-	0	42	0	0	0	0	-	0	0
7/5	5	0	10	0	-	0	10	0	0	0	0	-	0	0
7/6	-	0	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0
7/7	-	2	0	0	-	0	2	-	0	0	0	-	0	0
7/8	69	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1	-	0	1
7/9	0	1	0	0	-	0	1	0	0	0	0	-	0	0
7/10	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0
7/11	0	0	24	0	-	1	25	0	0	0	0	-	0	0
7/12	12	1	51	2	-	0	54	0	0	0	0	-	0	0
7/13	-	0	8	0	-	0	8	0	0	0	0	-	0	0
7/14	-	0	69	0	-	0	69	0	0	0	0	-	0	0
7/15	-	0	4	1	-	0	5	0	0	0	0	-	0	0
7/16	3	0	3	0	-	0	3	0	0	0	0	-	0	0

図1 飛来に基づくトビロウカ発生予想パターン図 (平成24年7月20日作成)

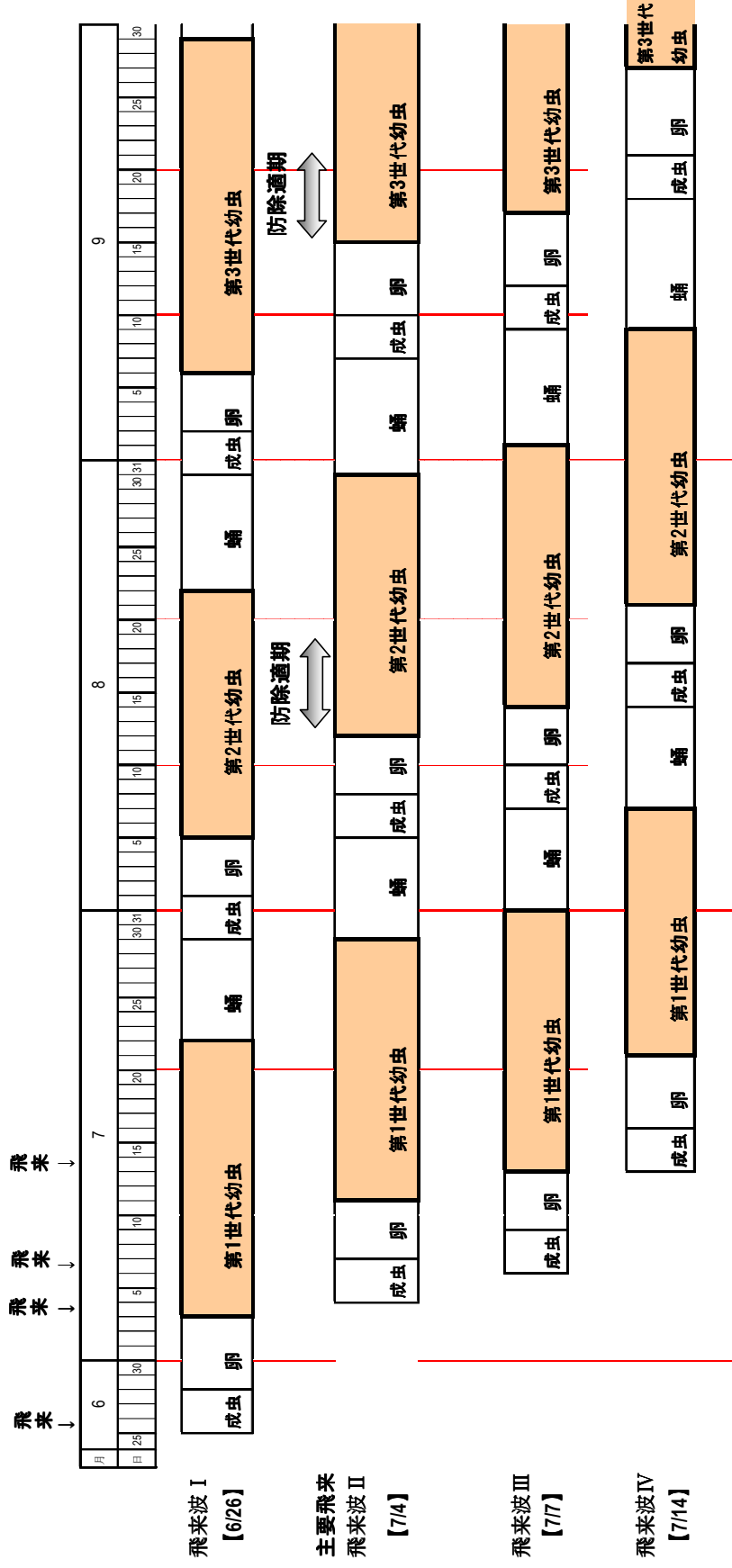


(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。

(2) 気温はアムダス大宰府を使用した。

(3) 发育零点12.0°C、发育上限温度28.5°C、发育停止温度33.0°C、有効積算温度(成虫期間100.0°C、卵期間109.4°C、幼虫期間189.4°C)

図2 飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図 (平成24年7月20日作成)



- (注) (1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。  
 (2) JPP-NFTの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。发育零点 (卵)13.0°C、幼虫12.5°C、蛹14.2°C)、发育上限温度28.5°C、发育停止温度33.0°C、有効積算温度 (卵)50.0°C、幼虫250.0°C、蛹90.0°C)  
 (3) 気温はアメダス大宰府を使用した。  
 (4) コブノメイガはウンカ類と同時期に飛来したと推定した。